

新連載についてのご案内 ～港湾産別協定の解説～



私の労働組合中央本部からは、新港ふ頭地区の赤レンガと大棧橋が同時に見ることが出来ます。たまたま

リレー随筆 ～横浜三塔物語～

大棧橋に、クルーズ船の「ダイヤモンド・クルーズ号」が接岸していました。この新港ふ頭では、現在も「ハンマーヘッド」と呼ばれている五十トン起重機など歴史的な建造物が現存しています。



クイーンの塔(横浜税関)、



塔(神奈川県庁本庁舎)、

存知かと思われませんが、横浜三塔物語のヒーポイントがあります。



ジャックの塔(横浜市開港記念会館)

と昭和初期に外国船員がトランプ(米国大統領ではないです)のカードになぞられて呼んだことが由来で、戦争などをめぐり抜け立ち続け、航海の安全を祈り、これを目印に入港したと言われています。

さて三塔物語のヒーポイントにはもう一つあり日本大通にあり、三塔が同時に見ることが出来ます。この三つのヒーポイント全てを回ると願いが叶うという都市伝説が三塔物語と言われています。



平素は機関紙「全国港湾」を、愛読いただきまして、ありがとうございます。

さて、二〇一八年四月(三〇一号)の北海道港湾からスタートした各地区港湾コラムの連載が、二〇一九年五月(三一四号)で一通りめぐりました。寄稿を寄せていただきました地区港湾の皆様には、あらためて御礼申し上げます。

新連載の港湾産別協定書・確認書を基本としの解説がスタートします。二〇二二年(平成三十二年)六月八日、日本港湾協会との「労働組合法に基づく団体交渉権を確立」して、中央港湾団体交渉のたびに、協定書・確認書・覚書を締結し、それまでに締結した協定書、確認書などを集約整理して編集を行い、一九八六年(昭和六一年)八月一日(一回目刊行)と二〇〇〇年(平成十二年)六月二十七日(二回目刊行)に協定書・確認書集として確認、調印されました。その後、この協定

現在、二〇二三年(平成三十五年)以降の協定・確認・覚書を組み入れ、整理、編集、刊行する事を求めています。港湾産別協定は、港湾の現状を直視し、持続可能な港運事業を直視した労使の知恵であり、①地区・港・企業・職種に関する、労働条件の最低をルール化したもの(労働時間・休日・休暇)

港湾産別協定① ～成り立ち～



港湾産別協定は、港湾の「労働協約」であり、この協定を守らせ、よりよく改善していくのは、組合員の皆様と一緒に、目次の順番にめぐっていただきます。

本年6月、全労済から「こくみん共済 coop」へ

ZENROSAI NEWS

「こくみん共済 coop」とは、「こくみん みんなのために、共済というたすけあいの仕組みを提供する、協同組合(coop)である」ことを表しました。

皆さまのご契約内容等に変更が生じることはありません。また、お手続きも不要です。

よろしくおねがいします!

全労済 こくみん共済 coop

全国労働者共済生活協同組合連合会